

市長の活動報告（令和8年2月）

2月11日（水曜日） 関西・阿南ふるさと会・広域連携産業振興シンポジウム

大阪市の梅田スカイビルにて「広域連携産業振興シンポジウム」及び「関西・阿南ふるさと会」総会・光流会を開催いたしました。

シンポジウムには、関西と本市の事業者様など34団体にご参加いただいたほか、阿南市の企業と関西の企業の代表者計3名の方に講演していただきました。昨年大盛況のうちに閉幕した「大阪・関西万博」の熱気を本市の成長につなげるべく、関西と阿南の架け橋となる新たなビジネス創出や販路拡大に向けた有意義な企業間交流が行われました。

続く「ふるさと光流会」には65名が集い、「ふるさと阿南」への思いを一つにして親睦を深めました。会場では、特産品であるタケノコの水煮などが販売されたほか、本市出身の笑福亭學光さんが所属する「はなしか連」による阿波踊りの乱舞も披露され、会場は熱気と笑顔に包まれました。

今回築かれた強固なネットワークや人と人との繋がりを最大限に生かし、本市のさらなる産業振興と地域経済の活性化に向け、全力で取り組んでまいります。



2月18日（水曜日） 徳島県南部圏域における医療提供体制確保に関する要望活動

阿南市を中心とする「南阿波定住自立圏」を構成する1市4町と、阿南医療センター等の医療機関との合同で、国に対する医療提供体制確保の要望活動を実施いたしました。

現在、徳島南部圏域では深刻な医師・看護師不足により、医療現場は極めて厳しい状況に直面しています。この難局を打開するため、仁木博文厚生労働副大臣をはじめ、厚生労働省や財務省の幹部を直接訪問し、要望書を手交いたしました。

要望では、医師偏在の是正、看護職員の確保、そして少子化対策の要である小児・周産期医療の維持に向けた包括的な支援を強く訴えました。加えて、厚生労働省の担当官僚の皆さまとも医療現場の切実な現状を共有し、活発な意見交換を行いました。

市民の皆さまが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、今後も南部圏域が固く結束し、地域医療を守り抜くための活動を全力で推進してまいります。



2月21日（土曜日） 小松島南IC～阿南ICウォーキングイベント

令和8年3月8日に開通を迎える徳島南部自動車道（小松島南IC～阿南IC間）の記念イベント「渡り初め」が開催され、私も参加してまいりました。

当日は雲一つない快晴に恵まれ、約1万人もの皆さまが参加される盛大な催しとなりました。延長3.2キロの区間が開放され、参加者の皆さまは真新しい案内標識や那賀川を見下ろす雄大な景観を楽しみながら、開通を前にした特別なひとときを過ごされていきました。

また、全長753メートルの羽ノ浦トンネルでは色とりどりのLED照明によるライトアップが行われたほか、高所作業車の乗車体験なども実施され、会場には約1万人が訪れるなど大いににぎわいました。

私自身も会場で多くの市民の皆さまと交流をさせていただき、「歩いて渡れる貴重な機会になった」「開通がますます楽しみ」といった生の声を直接伺い、地域の期待の大きさを改めて実感いたしました。

同区間の開通は、慢性的な交通渋滞の緩和や、救急搬送にかかる時間の短縮など、市民の皆さまの命と暮らしを守る大きな効果が見込まれています。今後も国や県と連携し、県南部の交通インフラ整備と地域のさらなる発展に全力で取り組んでまいります。



2月28日（土曜日） 阿南市・那賀川町・羽ノ浦町合併20周年記念シンポジウム「阿波公方を語る」

阿南市・那賀川町・羽ノ浦町合併20周年記念事業として、コスモホールにて戦国時代から約270年にわたり那賀川町で暮らした足利家の末裔「阿波公方」をテーマにシンポジウム「阿波公方を語る」を開催いたしましたところ、約400人もの皆さまにご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。

天理大学人文学部歴史文化学科の天野忠幸教授による基調講演「三好氏と足利義維（義冬）・義栄父子」を行っていただき、阿南の地に息づく歴史に思いを巡らせることができました。その後のパネルディスカッションでは私もパネリストとして参加し、専門家の先生方とともに阿波公方の壮大な歴史の魅力を紐解きました。

「過ぎし世を知る」は、「来るべき世を創る」礎になると私は考えます。来年度は本市で「全国足利氏ゆかりの会」が開催されるこの契機を生かし、阿波公方の歴史を道しるべとして、次世代へ受け継ぐ「ふるさとの誇り」を育むまちづくりを力強く進めてまいります。

